

とと通信

2020年5月23日発行

206号

「とと通信」は
読んでととつ。
いつも読んでいて
おかげでととつ。

こんにちは！平川です。今年が残念ながら、お花見は出来ませんでした。お花見は幸せな気分になります。そこには健康があって、家族がいて、美味しい料理があって、気が合う友人がいて、笑いがあって、自由な時間があるって、自然があつて、幸せな気分になれる条件がそろっているからです。本当に大切なものは、無くて初めてその存在に気づきます。



有ることが当たり前では無いのです。感謝を忘れないようにしたい。その事をコロナウィルスは気づかせてくれました。さて今回は、大切な人へ今すぐ感謝を伝えたいくなる本を紹介いたします。それは「大切な人に贈りたい24の物語」。これは24話のストーリーからなる本です。その中から「授業」というお話を紹介します。

友人から良い話を聞きましたのでご紹介します。ある小学校に生まれました。知能に問題のある男の子がいました。担任の先生は算数や

国語の時間、この男の子が答えを出せないことを分かっているのに、男の子に答えを出すように、厳しく求めました。男の子は必死に答えを出そうとするのですが、解けなくて、いつも他の子供達に笑われていました。しばらくして、この担任の先生が転任することになって、お別れ会が行われることになりました。先生にお別れの挨拶をする人を決めることになったのですが、「先生に一番、迷惑をかけたのだから、お前がやれよ」とクラスのみんなに言われて、無理やりにこの男の子が挨拶をさせられることになりました。お別れ会の当日、男の子が先生の前に立ったとき、クラスのみんなは笑いをこらえながら見つめていました。男の子は先生の顔をじつと見つめると「ぼくを普通の子どもと一緒に勉強させてくれて、ありがとうございます。放課後、つきつかりで計算を教えてください。ありがとうございます。本を毎日読んで聞かせてくれて、ありがとうございます。」

ごさいました。ピアノを教えてください。と感謝の言葉を述べました。男の子の挨拶は10分以上も続きましたが、その間、おしゃべりをする子どもは誰もいませんでした。クラス全員が真剣に男の子の話を聞いています。担任の先生は涙をこらえながら、この男の子の話を聞いていました。そして、先生は最後に、「全てを持っている人は、誰もいません。あなたは国語や算数は人よりできないかもしれないけれども、その欠点を補うために必死の努力をしました。なかなかできることではありません。私はあなたに勉強を教えられるととてもうれしかったです」と話しました。相手のこと本当に思うならば、厳しさも必要ですね。いつかは必ず、感謝されると思います。」

感動をもらえます。読み終えた後、自分のとても大切な人、家族、両親、友人、先生に今すぐにでも会って、感謝の言葉を伝えたいくなるおススメの本です。

■大切な人に贈りたい24の物語
中山和義氏著

追伸、書き終えた後で気づいたのですが、この物語は、以前にも紹介しました。すみません。(汗)

今年、糸島三都10キロウォークは、3月5日に中止を決定いたしました。その時は、まさかここまで被害が全世界に広がり、経済にダメージを与えろとは思っていませんでした。起こる事には意味があり、偶然ではなく、必然だとして、いたい。今回は何なのでしょう。できれば10年後に振り返った時、「あの時のコロナがあったから、今の私の今の会社があるのだ」と言いたいのです。

その為にも、先の事は心配せず、今だからこそ出来る事をしたいと思っています。

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>